学校番号	T3006

令和５年度　工業科（生活デザイン系列）

教科	工業	科目	デザイン実習	単位数	2	年次	3
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

本実習は、工業製品（生活用品）にヒントを得ながら，立体的な作品の制作を目指します。これまでの生活デザインで学んだことを活かし、調査・研究を行いその考察に基づいてコンセプトを立て、自ら提案する姿勢を確立することが大切です。各種のデザイン用具やコンピューターを利用し、コンセプトに合った立体的な作品を創造しましょう。作品制作にあたっては技術・技法等の基礎を身に付けようとする姿勢で取り組み、専門に関する座学で学んだことを活用して学習の効果を高めるよう工夫しましょう。

2　学習の到達目標

実用性のある立体的な作品を作成し、総合的に学習する。

生活デザインでは工業製品をモチーフにコンセプトを立ててデザインする。製図やコンピューター・模型制作を通じて、自らデザインした製品を提案する技術も習得する。また、作成した製品について使用してみて、振り返りを行う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	実用性のある立体的な作品に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	実用性のある立体的な作品に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	実用性のある立体的な作品に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	実用性のある立体的な作品に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 課題作品 観察記録表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 課題作品 観察記録表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 課題作品 観察記録表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 課題作品 観察記録表 自己評価・相互評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

ローテーション	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
通年	作品を理解	・いろんな工業製品を観察する ・作品の絞込みと作成手順の計画 ・作品の材料等を調べる ・材料の確認や準備	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	a: 既製の製品の調査・研究をして、工業製品について、関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b:作品を作成する手順について、調査し、理解しようと意欲的に取組んでいる。 c:作品の材料を調査し、作成可能かどうかを考え、各過程において計画することができている。 d:自ら作成する作品のものづくりに果たす意義や役割を理解している。	学習状況の観察 ワークシートの記述 作品制作 レポート 自己評価・相互評価 等
	作品を作成	・製図用具やコンピューターを使った作品の面図作成 ・作品をデザインするためのコンセプトの設定 ・簡易な模型や色彩の設定 ・作品の評価	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:コンセプトを設定しアイデアを出すことに高い関心を持って意欲的に取り組む。また、教員に適時、的確に状況を報告し、指導を受けながら作業を進めることができる。 b:作品制作の作業過程を理解して自ら問題解決に向けて条件設定する能力が身に付いている。 c:作品の作成など各過程において合理的に計画することができている。 d:基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会におけるものづくりの意義や役割を理解している。	学習状況の観察 ワークシートの記述 作品制作 レポート 自己評価・相互評価 等

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。